

# 第1章 はじめに

## 1.1 ビジョン策定の趣旨

本市の水道事業は、昭和37年1月に、計画給水人口11,800人、計画1日最大給水量1,770m<sup>3</sup>/日で給水を開始し、現在は、計画給水人口86,500人、計画1日最大給水量38,900m<sup>3</sup>/日で事業を推進しています。

近年、水道を取り巻く環境は、少子化による人口減少、創設期に建設した施設の老朽化に伴う更新需要の増加、地震に対する対応等大きな変化を迎えています。

本市は、「安全で安心な水道事業を未来へ継承する」を基本理念とした「尾張旭市水道ビジョン」を平成20年3月に策定しました。

この度、厚生労働省より「新水道ビジョン※1」が発表されたこと、「尾張旭市水道ビジョン」策定から10年が経過したこと等から本計画の見直しを行い、より有効的な計画を立案し、目標を達成するため、現時点での進捗と課題を明らかにし、今後の目指すべき姿や具体的な施策を示す「尾張旭市新水道ビジョン」を策定しました。

## 1.2 計画期間

『「水道事業ビジョン」作成の手引き』によると、「当面の目標点を策定から概ね10年後とし、50年、100年先の将来を見据えた当該水道事業の理想像を明示することを基本とする。」とあります。

本市においても、実効性のある具体的な施策を検討する期間としては10年程度が妥当であると考え、計画期間を平成30年度(2018年度)から平成39年度(2027年度)まで(10年間)とします。

## 1.3 ビジョンの位置付け

本市では、平成26年3月に“みんなで支えあう 緑と元気あふれる 住みよいまち 尾張旭”を目指し、「尾張旭市第五次総合計画※2」を策定しました。また、人口減少や少子化等の社会構造の変化や高度経済成長期に整備された水道も含むインフラ施設の老朽化や建て替え等の更新を今後迎えるため、平成29年3月に「尾張旭市公共施設等総合管理計画※3」を策定しました。

「尾張旭市新水道ビジョン」は、市の上位計画で掲げる施策の実現を図るとともに、国の「新水道ビジョン」が目指す将来像の実現のため、現在遂行している計画「尾張旭市水道ビジョン」との整合にも留意を図り再検討を行い、水道事業者としての役割分担を考慮し、地域性を踏まえた取組施策の展開を図ります。

### ●解説

- ※1 新水道ビジョン：厚生労働省は、平成16年に「水道ビジョン」を策定し、今後の水道事業のあるべき姿や方向性を明らかにした。その後、水道を取り巻く大きな環境変化に対応するため、平成25年3月に新しいビジョンとして「新水道ビジョン」を公表した。
- ※2 尾張旭市第五次総合計画：尾張旭市の総合的かつ計画的に市政運営を図るための長期的なまちづくりの指針
- ※3 尾張旭市公共施設等総合管理計画：中長期的な視点で公共施設の財政負担の軽減・平準化を図り、適正配置を目指していくための基本的な考え方や方向性を示す計画

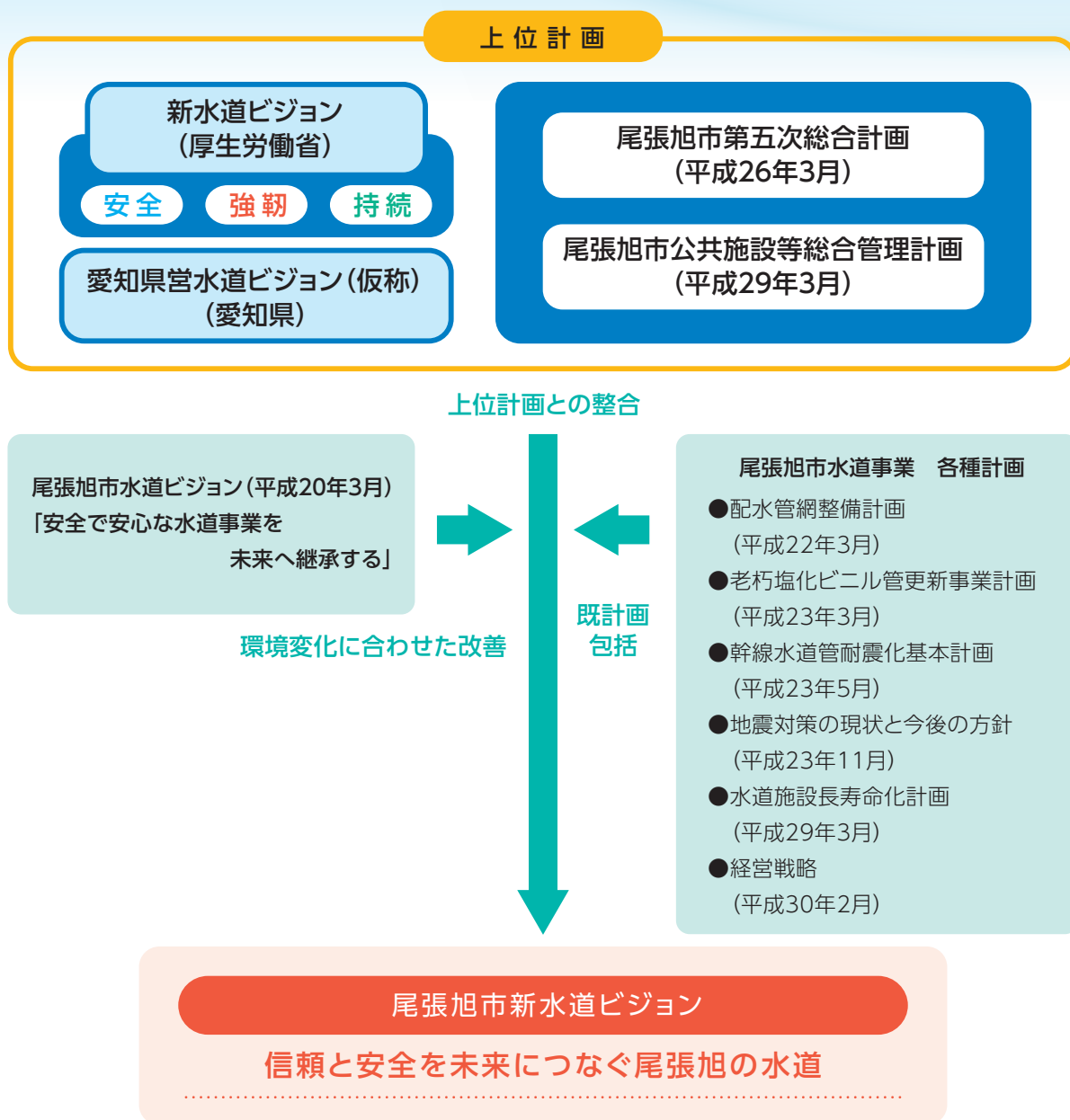


図1.1 尾張旭市新水道ビジョンの位置付け